

毎日新聞 2月29日(月)18時49分配信

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160229-00000048-mai-soci>

◇電圧上げる主変圧器のトラブルが原因か

関西電力高浜原発4号機（福井県高浜町）は29日、発電機と送電線をつないで送電を開始する操作中に、発電機がストップし、原子炉が緊急停止した。関電が発表した。高浜4号機は26日に再稼働したばかりだった。発電した電気の電圧を上げる主変圧器のトラブルが原因とみられ、詳しく調べている。原子炉は正常に冷却されており、放射性物質の外部への放出はないという。

関電によると、操作を開始した午後2時1分26秒、主変圧器や発電機などの故障を知らせる警報が作動し、発電機が自動停止。1秒後には核分裂反応を抑制する制御棒全48本が自動落下し、タービンと原子炉も緊急停止した。

その後、屋外に設置している主変圧器の故障を示す検出回路が動作していることが分かった。主変圧器は、発電後の2万3000ボルトの電圧を送電線に乗せるために50万ボルトにまで昇圧する機器。

高浜町の関電施設内に設けられたプレスセンターで記者会見した宮田賢司原子力事業本部副本部長は「まずはトラブルの原因を見極め、きちんと対策を打って次の工程に進みたい」と説明した。26日に再稼働した4号機は、29日から発送電を開始し、3月下旬に営業運転に移行する予定だったが、宮田副本部長は「（今後の工程について）一切分からない」と話した。

（後半省略）